

(資料1)

子宮頸がん予防ワクチン予防接種の3種類のワクチンについて			
	2価ワクチン(16型・18型)	4価ワクチン(6型・11型・16型・18型)	9価ワクチン(6型・11型・16型・18型 31型・33型・45型・52型・58型)
商品名	サーバリックス	ガーダシル	シルガード9
製造会社	GSK	MSD	MSD
予防できるHPVの型	ヒトパピローマウイルス16型と18型感染に起因する子宮頸癌(扁平上皮細胞癌、腺癌)及びその前駆病変(子宮頸部上皮内腫瘍2及び3)の予防	ヒトパピローマウイルス6、11、16及び18型の感染に起因する以下の疾患予防 子宮頸癌(扁平上皮細胞癌、腺癌)及びその前駆病変(子宮頸部上皮内腫瘍1、2及び3並びに上皮内腺癌 外陰上皮内腫瘍1、2及び3並びに膣上皮内腫瘍 尖圭コンジローマ	ヒトパピローマウイルス6、11、16、18、31、33、45、52及び58型の感染に起因する以下の疾患予防 子宮頸癌(扁平上皮細胞癌、腺癌)及びその前駆病変(子宮頸部上皮内腫瘍1、2及び3並びに上皮内腺癌 外陰上皮内腫瘍1、2及び3並びに膣上皮内腫瘍 尖圭コンジローマ
接種方法 接種部位	1回 0.5mlを上腕三筋肉内に接種	1回 0.5mlを上腕三筋肉内 又は大腿四頭筋に接種	1回 0.5mlを上腕三筋肉内 又は大腿四頭筋に接種
接種回数 接種間隔	標準的な接種期間として、 1回目 2回目・1回目から1か月の間隔を おいて 3回目・1回目から6か月の間隔を おいて ※3回目は2回目から2か月半以上あけます。 ※1年以内に3回の接種を終了することが望ましい。 ただし、当該方法をとることができない場合は、 1月以上の間隔を おいて 2回行った後、1回目の注射から5月以上、 かつ2回目の注射から2か月半以上の間隔を おいて 1回行う。 (定期予防接種実施要領)	標準的な接種期間として、 1回目 2回目・1回目から2か月後 3回目・1回目から6か月後 ※3回目は2回目から3か月以上あけます。 ※1年以内に3回の接種を終了することが望ましい。 ただし、当該方法をとることができない場合は、 1月以上の間隔を おいて 2回行った後、2回目の注射から3月以上間隔を おいて 1回行う。 (定期予防接種実施要領)	★1回目の接種を15歳以上で受ける場合 標準的な接種期間として、 1回目 2回目・1回目から2か月後 3回目・1回目から6か月後 ※1年以内に3回の接種を終了することが望ましい。 ただし、2回目及び3回目の接種が1回目接種後の2か月後及び6か月後にできない場合、2回目接種は1回目から少なくとも1か月以上、3回目接種は2回目接種から少なくとも3か月以上間隔を おいて 実施 (予防接種実施要領)
			★1回目の接種を15歳までに受ける場合 標準的な接種期間として、 1回目 2回目・1回目から6か月後 ※1回目接種から6～13か月後までに接種することが望ましい。 ただし、2回目の接種は1回目から少なくとも5か月以上の間隔を おいて 実施する。2回目接種が1回目から5か月後未満であった場合、3回目の接種を実施する。この場合、3回目の接種は2回目の接種から少なくとも3か月以上間隔を おいて 実施する。

①どのワクチンを接種するかは、保護者及び対象者をご相談の上、予約の際に確認してください。

②ワクチンにより接種間隔が異なります。ご注意ください。